

都市計画のよる

街づくりの話

本市は、昭和六十二年四月一日、機構改革を行い、都市計画事業に積極的に取り組むため、新たに都市計画課を設置いたしました。

そこで、都市計画と街づくりについて紹介します。

一、都市計画とは何か

人が集まって生活する場所、それは即ち「まち」であります。人類の文明が進むにつれて都市には極めていろいろな機能が集まってきました。このような都市への人口・産業の集中により、都市の成長と発展をいかにして適正にコントロールしていくか、それが都市計画の役割であります。多様化している都市の活動が一体として十分に機能し得るように、都市のなかに統一を与え、街路(都市計画道路)・公園(都市計画公園)・その他都市施設を整備すると共に、土地の利用を合理化することを目的として、総合的

な計画を指しています。

二、都市計画の役割とは

広域的な立場から定められた、都市計画区域内・用途地域を指定し、住宅、店舗、事務所、工場等の用途を適正に配分することにより、建築確認等の規制を行うことにより、都市における計画的な土地利用の規制と誘導を図り、良好な市街地を形成させることです。

三、都市計画のしくみ

都市計画区域は、一定の基準にもとづいて定められています。その基準は大別して二種類あつて、第一には、今の市街地を核として、その市街

地を含んで周囲の土地の区域を都市計画として指定して街をつくっていく場合と、第二としては、市街地のないところに新たに都市をつくっていくため、土地の区域をきめる場合があります。つまり、わたしたちの街づくりは、主として都市計画の推進によって行われているのです。

街づくりと一口に言っても、その意味は言う人の立場や考え方によってさまざまですが、例えば、市民であれば、日常生活に直結した、住み、働き、憩い、学ぶことを勧誘しながら、通勤、通学、買い物など

に対する利便性、快適性と、更には、文化的、教育的、社会的な面から見た街づくりについて考え、市(行政)は、都市の自治や、都市の経営の立場から、市民が、豊かで住みよい生活環境が確保できるよう、つまり「快適で安全な生活環境の創造」を基本としています。

街づくりの歴史は古く、古代では政治的、宗教的な「みやこ」の建設がみられ、中世では、農業技術の発達に伴い交換経済から、貨幣経済の浸透による商業の発達を背景に港町、市場町、宿場町が発達しました。更に、杜参詣の活発化により、門前町、寺内町の建設が行われたわけです。また、武士社会の基盤として、城下町初期の「砦」を核とした軍事産業の建設、近世では、城、武家地区、町屋地区、寺院地区が一体的に計画された城下町の建設が行われ、政治、経済、文化の中心として街づくりが行われたのです。特に、町屋地区には大工町、呉服町、鍋屋町といった職業別にプロックされていました。

新たな宿場町の発達があり、鎖国政策による沿岸航路の発達による港町の発展と大流通市場としての大阪、大消費地としての江戸、京都など人口が増加し、大都市の出現となりました。

このように、都市(まち)は歴史的にみて、その時代ごとの政治、経済、産業、さらには、住民の生活形態、生活水準に応じて、いろいろな変化を経てきており、その時代ごとの要請に応じて、いろいろな投資が行われ、都市空間が形成されてきております。また、都市は人間居住の主要の場として、住民の生活、生産、文化等の全ての生活様式に密接なかわりがあります。したがって、街づくりにあたっては、主役であるそこに住む人々と、その街にふさわしい住民参加の街づくりを進めていかなければなりません。



そして、徳川幕府の参勤交代により、その街道沿いに

「街づくり」について、アイデア・情報等又わからないこと、知りたいことなどがありましたら、都市計画課 都市計画係まで「一報ください」。

☎(43)1111